

ヘルスケアアートの制作

実施者 元芸術工学研究科 教授 鈴木賢一

連携先 医療福祉施設等

ポイント

芸術工学部の学生がその特性を活かして病院の療養環境向上に貢献しました。

1 概要

- ・芸術工学部では、患者の目線から病院建築の環境改善を目指した研究に取り組んでいます。その一環として、多くの患者さんが病院に対して感じる不安感や恐怖感を軽減するため、インテリアデザインの企画と制作を行っています。床や天井、検査機器などにアートを取り入れることで、無機質で人工的になりがちな環境を柔らかくあたたかい雰囲気に変えていきます。

2 活動内容

- ・医療福祉施設等から依頼を受け、プロジェクトに取り組もうという意志のある学生を学部内で募ります。
- ・対象施設の現状を視察し、医療スタッフの皆さんからのリクエストをヒアリングします。これに基づき、デザイン案を提示し、修正を加えながらデザイン案を決定します。決定したデザイン案を、夏休みや春休みの期間を利用して、現場に入り込んで完成させます。前半のデザイン作成に2～6か月程度、現場作業には10名ほどが1週間程度参加し完成させます。

3 成果

- ・平成12年以降、東海地方の総合病院の小児科や小児クリニックなど40箇所以上で実績を積み重ね、患者さんはもとより医療スタッフの皆さんから好評を得ました。
- ・平成30年度からは文化庁の「大学における文化芸術推進事業」に採択され、ヘルスケアアートの人材育成講座をスタートさせました。
- ・令和3年度からは同事業に置いて「ヘルスケアアート活動をつなぐオンラインネットワークの構築」というテーマを掲げ、コロナ社会の医療福祉環境改善に資するアートマネジメント人材育成のためのオンライン講座を展開していました。



三重県内の病院における壁面アート制作



東部医療センターのコロナ患者病室のアート